

の取組

自然資源を利用した取組

コウノトリと共に生きる(兵庫県豊岡市)

かつて日本各地で見られたコウノトリは、生息環境の悪化により数を減らし、1971年に日本の空から姿を消しました。兵庫県豊岡市では、絶滅する少し前からコウノトリを守ろうと、1965年に人工飼育を始め、1989年には待望の人工繁殖に成功し、2005年、再びコウノトリが日本の空を舞いました。現在では、野外でもヒナが誕生しており、100羽をこえるコウノトリが同市を中心とした野外で暮らしています。

コウノトリは水田などの湿地でカエルやドジョウなどを食べて暮らすことから、野外で暮らしやすい環境をつくるために、2003年からは、農薬や化学肥料にたよらない「コウノトリ育む農法」を始めました。この農法で栽培された米は、一般的な農法に比べて1.3倍から1.6倍の価格で買い取られており、農家の収入の増加につながっています。環境を良くする取組により経済が活性化し、それがもととなってさらに取組が広がるという、環境と経済が共に影響し高め合う関係ができ上がっています。

地元の子どもたちも、生き物調査をはじめ、コウノトリの野生復帰の取組に参加しています。2017年度からは市内の全小中学校で「ふるさと教育」が始まり、コウノトリや地元の自然について学んでいます。こうした取組は、自分が生まれ育ったふるさとに対する愛着と誇りを育てることにつながっています。

● コウノトリと少年



● コウノトリ育むお米



● 子どもたちの生息地保全活動



資料：兵庫県豊岡市